

牧之原市義務教育学校  
基本設計説明

株式会社 梓設計

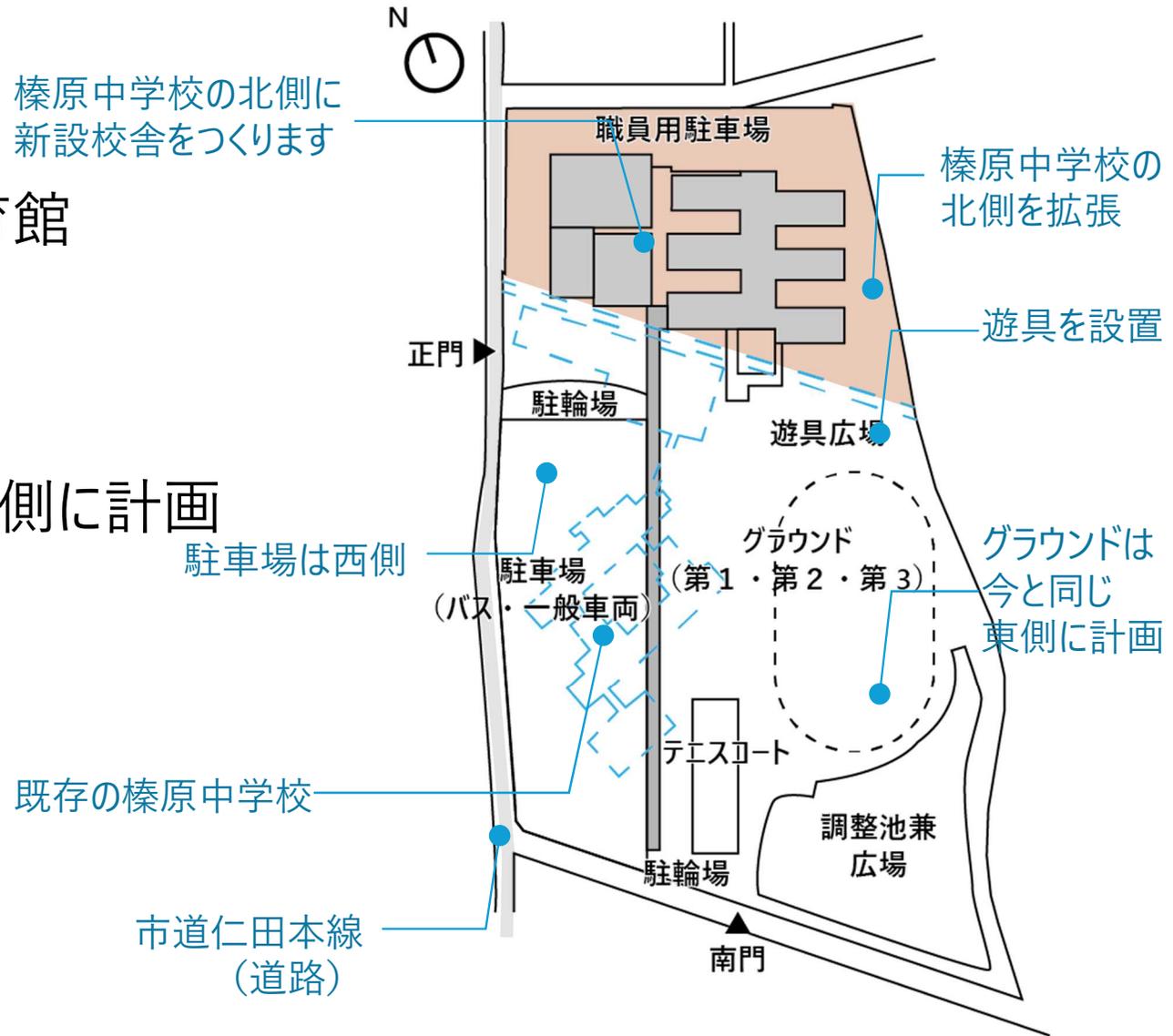
## 【目次】

1. 全体図・外観
2. コンセプト
3. コンセプトを実現する4つのポイント
  1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』
  2. 体感で学べる『学びの装置』としての校舎
  3. 安心・安全な動線と造成
  4. 将来の可変性を備えた施設
4. 建て替え計画・工程

# 1. 全体図・外観

## 配置計画の説明

- 北側拡張敷地に校舎・体育館
- 西側大通り側に駐車場
- グラウンドは既存と同様に東側に計画



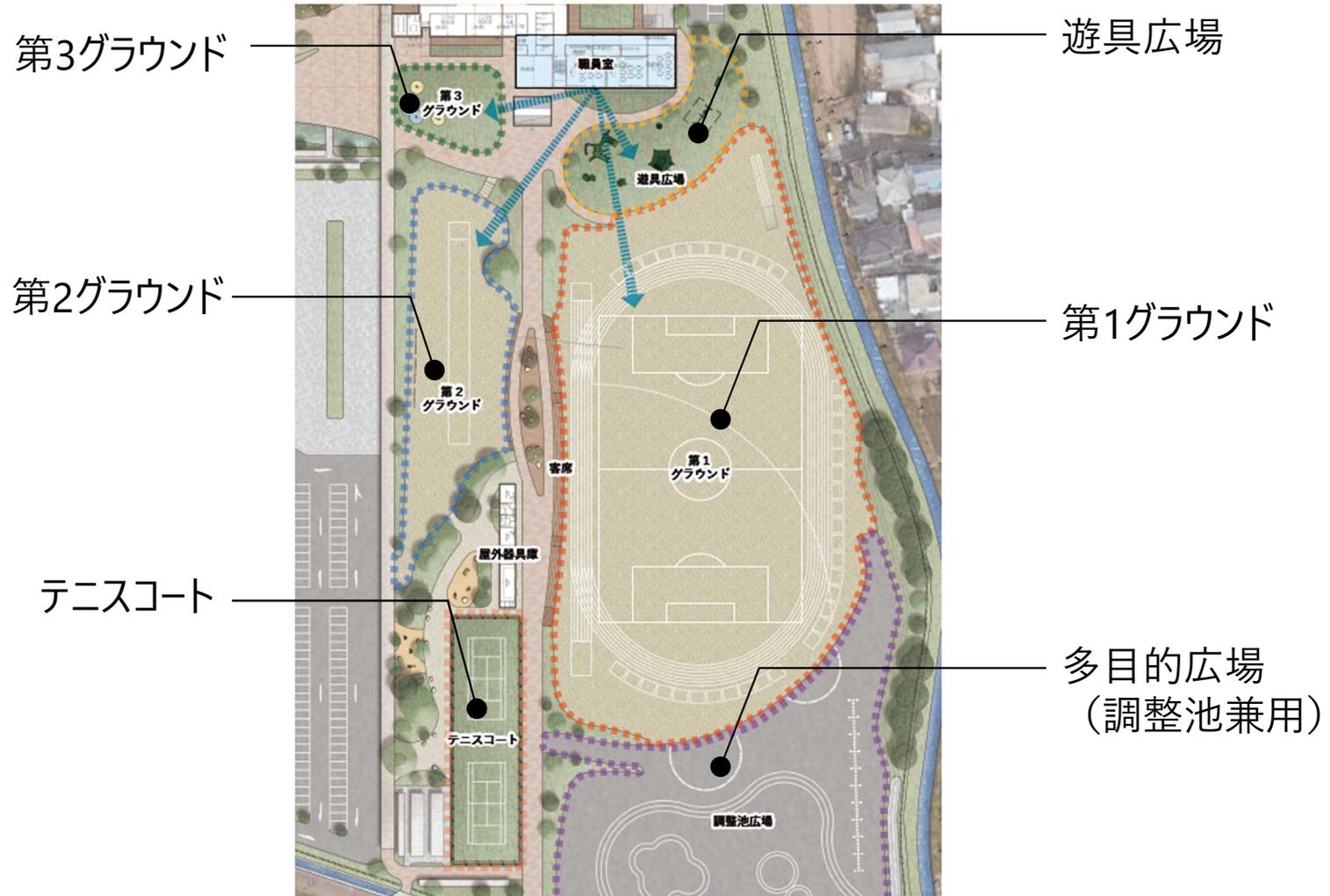
## 全体図・外観



新設校舎のイメージ

## 全体図・外観

### 体格や学習内容に応じて使い分けができる複数のグラウンド



## 2. コンセプト

## コンセプト

上位計画（基本構想・基本計画）で掲げられている整備方針

### 1. ワタシをつくる

「ワタシ」とは、子ども一人一人のことです。子どもの個性や主体性を尊重できる施設とします。

### 2. つながる「人・学び・体験」

「ワタシ」が多様な「人・もの・こと」に触れることができる施設とします。

### 3. ささえる

子どもの居場所となり、つながることができるよう、安全で機能性と汎用性が高い施設とします。



『ワタシ』を核とした施設づくり

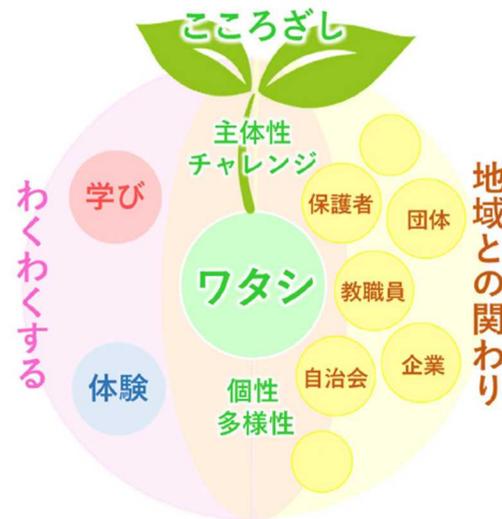
## コンセプト

### 施設コンセプト

『地域と共にわくわく学び・体験できるみんなの学校』



「ワタシ」を育み、地域の人たちと共に、  
わくわくするような学びや体験を通じて成長できる施設



設計コンセプト

『対話と協働を生む施設』



牧之原市の特徴である「対話と協働のまち」を活かし、  
協働的な学びが充実する施設



設計コンセプトを実現する4つのポイント

1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』
2. 体感で学べる『学びの装置』としての校舎
3. 安心・安全な動線と造成
4. 将来の可変性を備えた施設

## ポイント①

『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

## 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

### 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

01. 個と協働を育む『イエ』

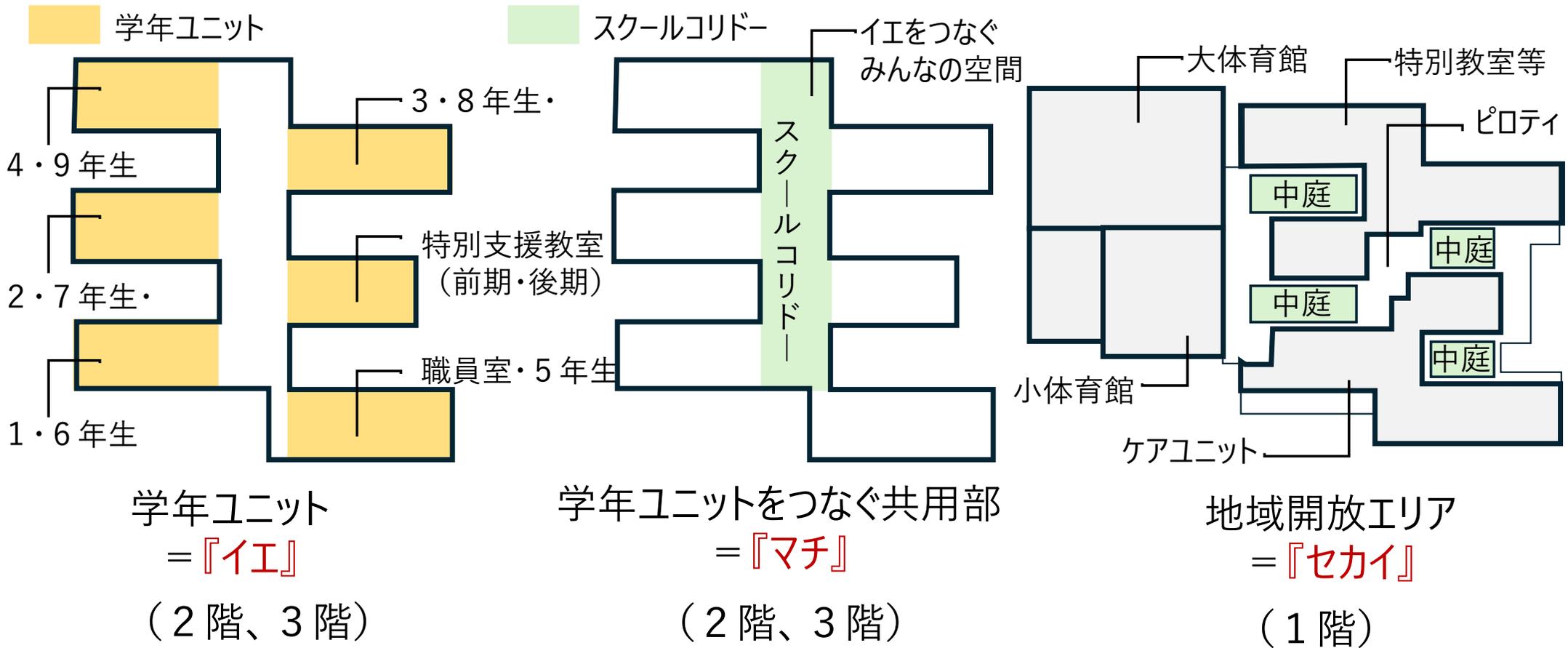
02. 学年を超えた学びとつながりを生む『マチ』

03. 居場所が選べる、交流が広がる『セカイ』

# 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

## 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

【平面計画の考え方】



## 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

### 01. 個と協働を育む『イエ』

- 安心できる・居心地の良い空間
- 個の学習 + 学年グループでの学習
- 個と協働的な学びの両方ができる
- 色々な使い方ができる仕掛け



空間イメージ

## 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

### 01. 個と協働を育む『イエ』



- 教室前に色々な活動ができるスペースを計画  
開閉可能な教室で、一体にも個室にもできる  
⇒ 例：展示、読書、勉強、授業・・・



- 組み合わせできる家具



- 前も後ろもホワイトボード、向きを変えて授業

## 02. 学年を超えた学びとつながりを生む『マチ』

- 多様な学習環境や交流空間
- 自然と新しい知識や体験に出会える
- 様々なテーマに触れられ、興味を深めることができる
- 学年に関係なく、興味によってつながる



多様な活動が見渡せる空間

## 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

# 02. 学年を超えた学びとつながりを生む『マチ』

- 目に留まりやすい位置に展示物や教材などの学びの種を散りばめた多様なスペース



座って読書、大きな図書スペース



1階のホールがのぞける



おすすめ本を紹介する展示

- 個別最適な学びに対応する多様な学習空間



囲まれた場所



座ったり、寝転がれる場所



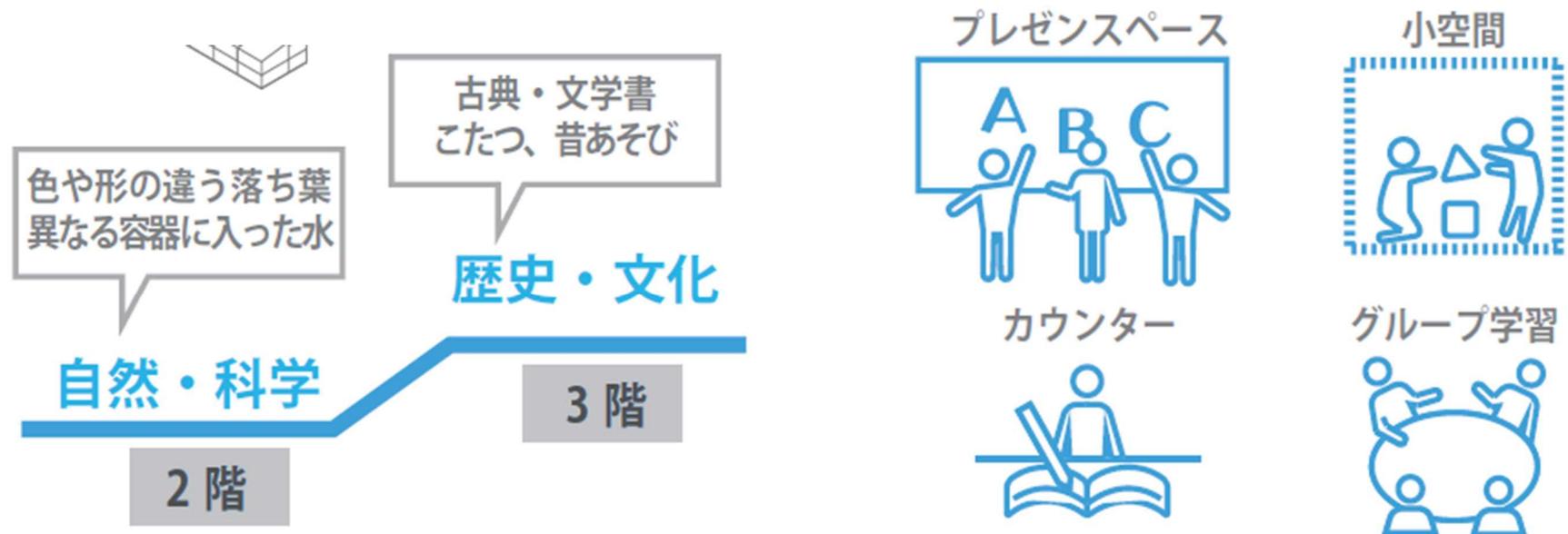
カウンター

# 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

## 02. 学年を超えた学びとつながりを生む『マチ』



学年に縛られず、興味のあることを通してつながり、交流できる場



# 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

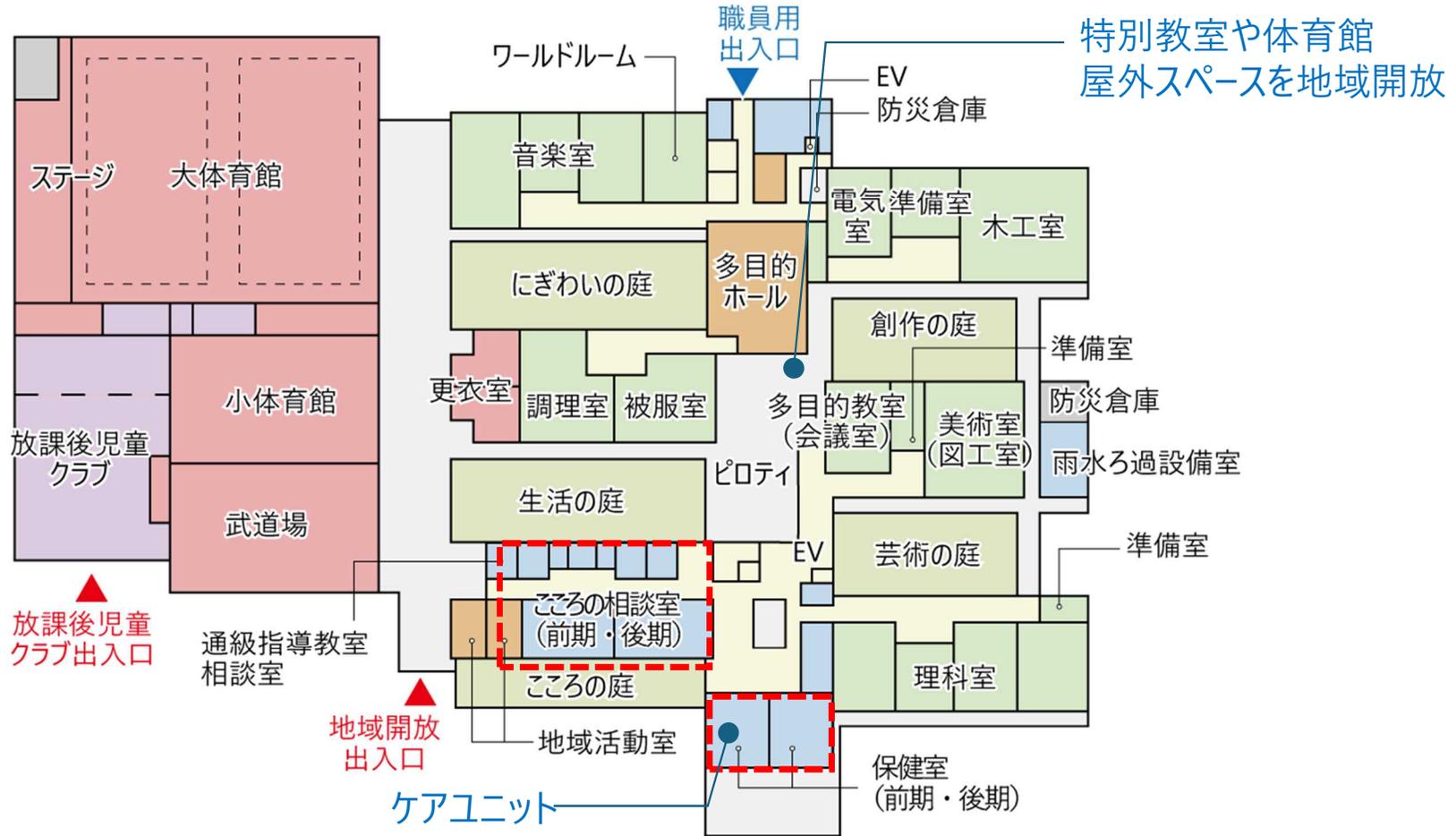
## 03. 居場所が選べる、交流が広がる『セカイ』

### 地域開放可能

- 特別教室
- 大体育館
- 小体育館
- 武道場

### ケアユニット

- こころの相談室
- 通級指導室
- ワールドルーム
- 多機能教室など



## 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

# 地域活動の場や、地域と学校の交流で 協働的な学びが生まれる『みんなの学校』

- 性格の異なる中庭や屋根付きの屋外スペース、特別教室をつかった多様な地域活動の拠点



空間イメージ



屋根付き屋外スペース

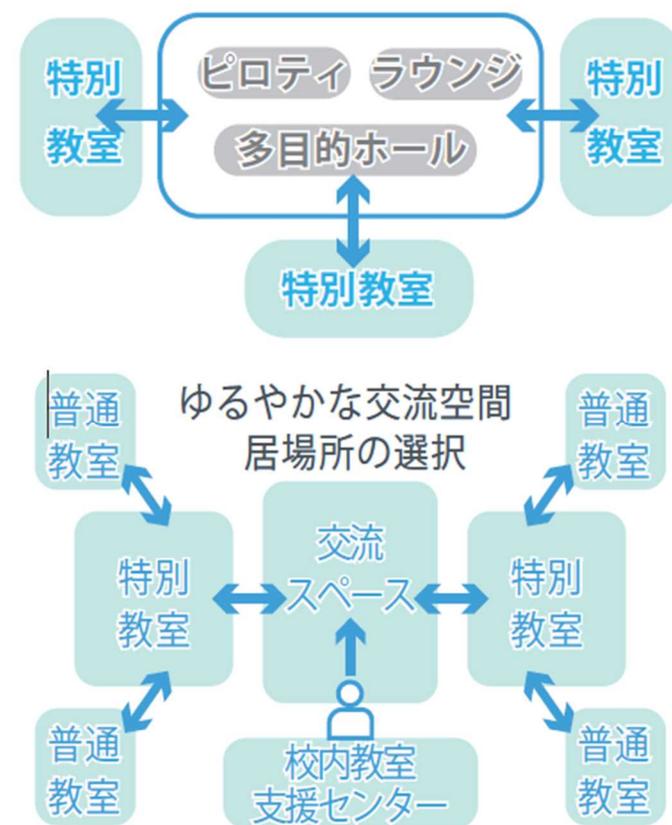


多目的ホール

### 03. 居場所が選べる、交流が広がる『セカイ』

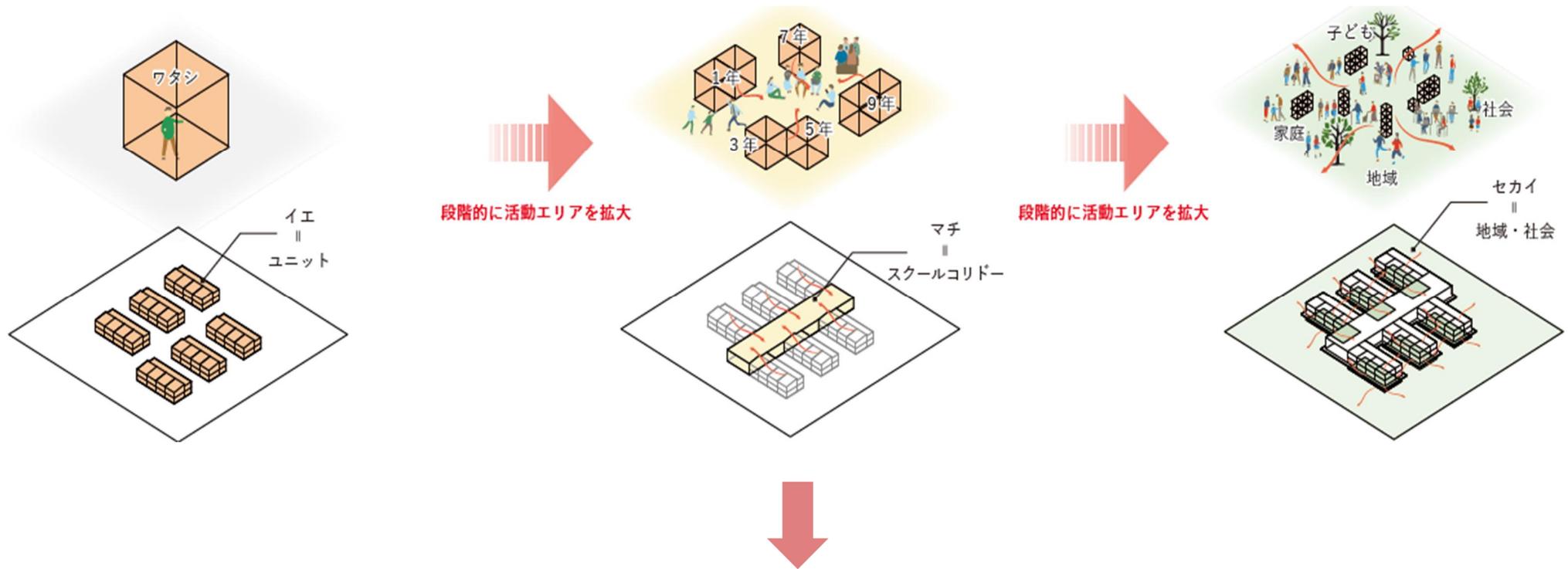


- 特別教室や体育館、武道場などの学校と地域がともに使える交流が広がる場所
- こころの相談室、通級指導室、ワールドルーム、多機能教室など、子どもの特性や状況に応じて学びや居場所を選べる環境を整備



## 1. 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』

# 『ワタシ』をつくる『イエ・マチ・セカイ』



子ども一人一人の感覚や興味、成長段階に応じて、居場所や学ぶ場所を選ぶことができる環境をつくる

## ポイント②

体感で学べる『学びの装置』としての校舎

## 2. 体感で学べる『学びの装置』としての校舎

# 体感で学べる『学びの装置』としての校舎



構造や環境を見える化することで、**学校全体が学びの場**となる

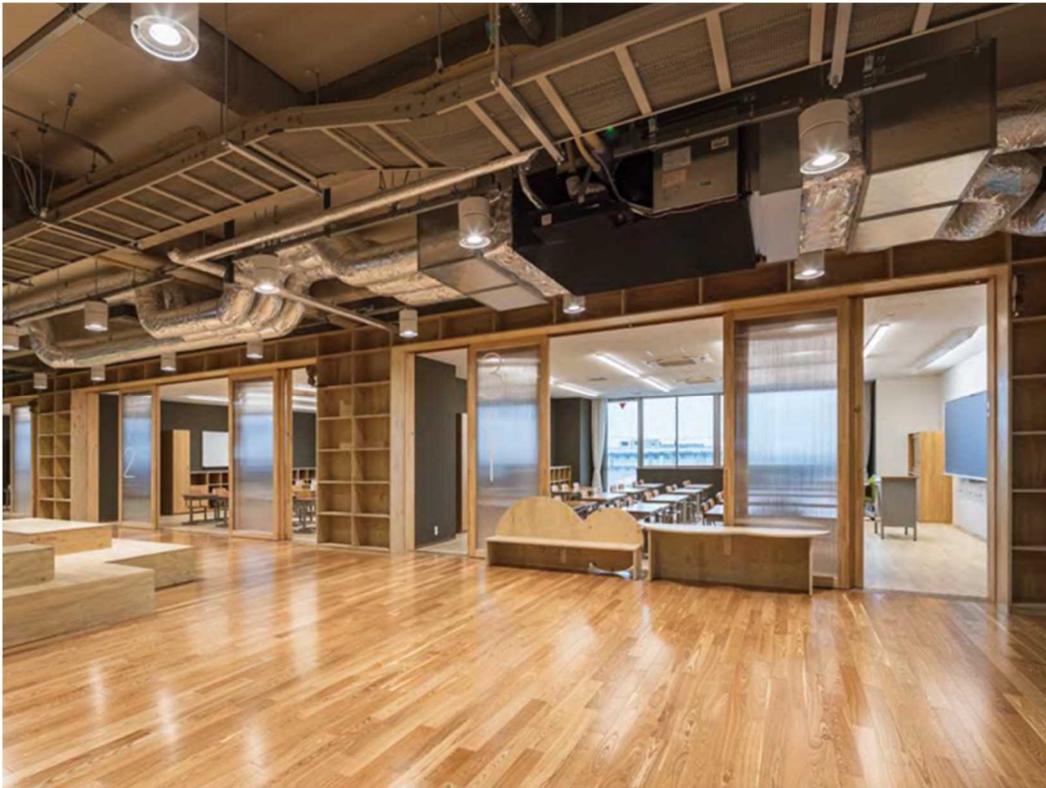
- ・光の入り方や風の流れるわかる「環境装置」としての学校
- ・建物の構造や配管などの仕組みが見える仕掛け
- ・太陽光パネルを目につく位置に設置し、創エネの見える化



## 2. 体感で学べる『学びの装置』としての校舎

# 体感で学べる『学びの装置』としての校舎

- 配管をあえて見えるようにする



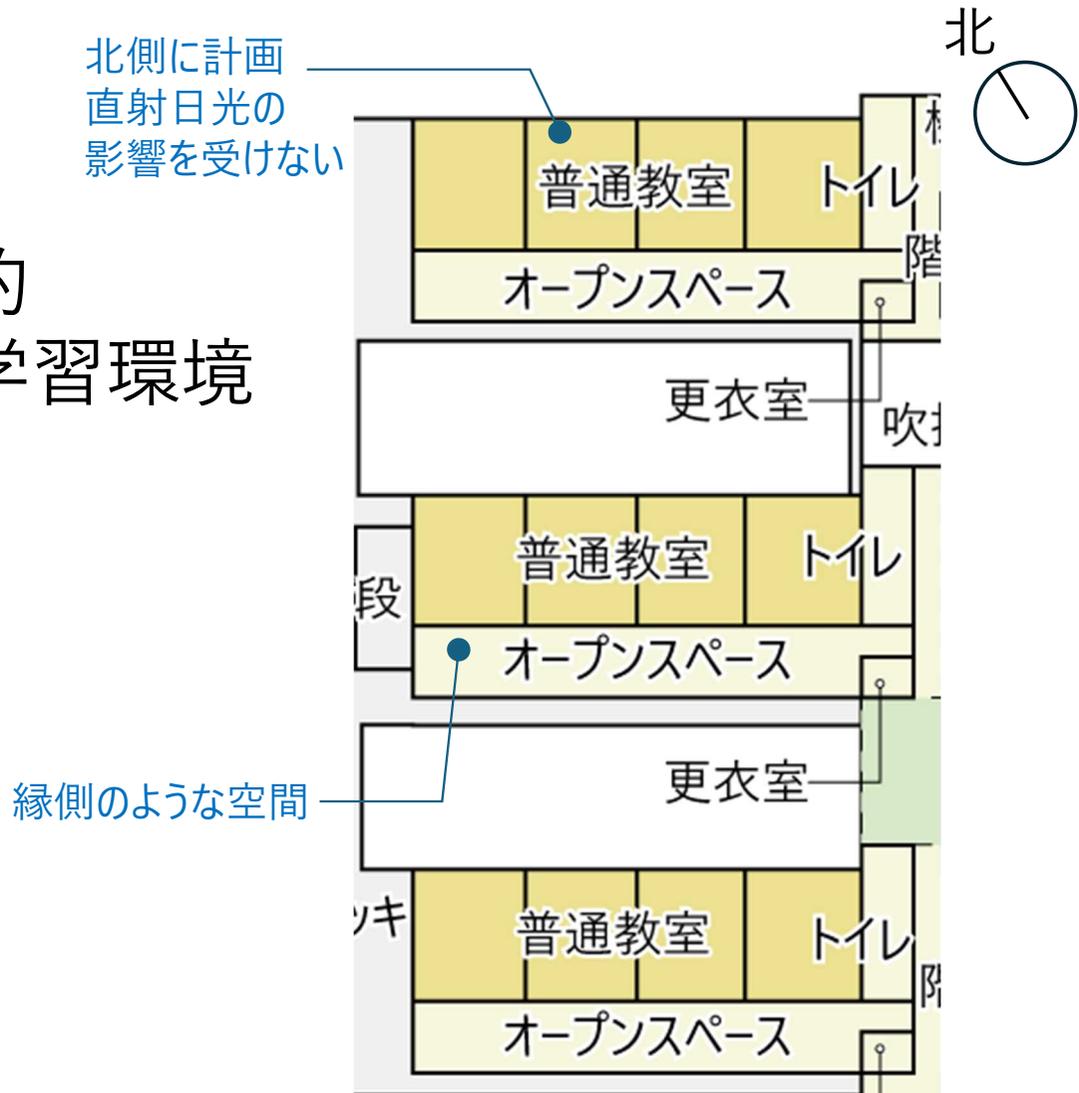
- 太陽光パネルの発電量が見えるモニター



## 2. 体感で学べる『学びの装置』としての校舎

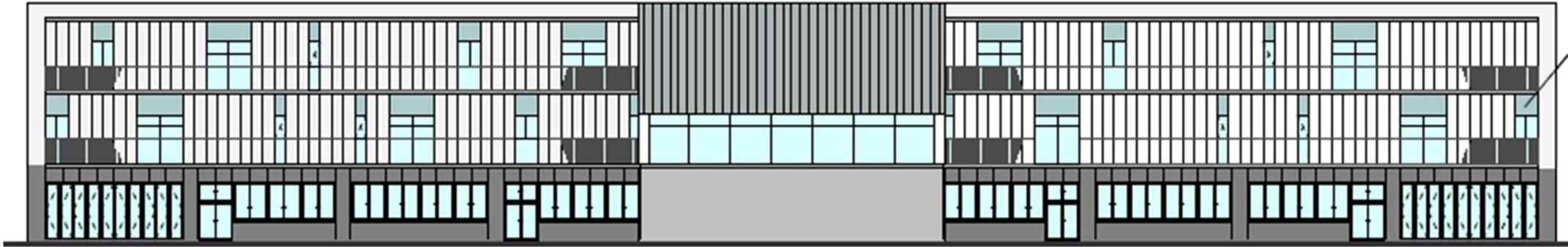
### 学年ユニットの考え方

- オープンスペースと教室が一体的な空間で使いやすい、多様な学習環境
- 北側教室による安定した採光
- 南側をオープンスペースとし、縁側として居心地の良い空間
- 自然通風を計画

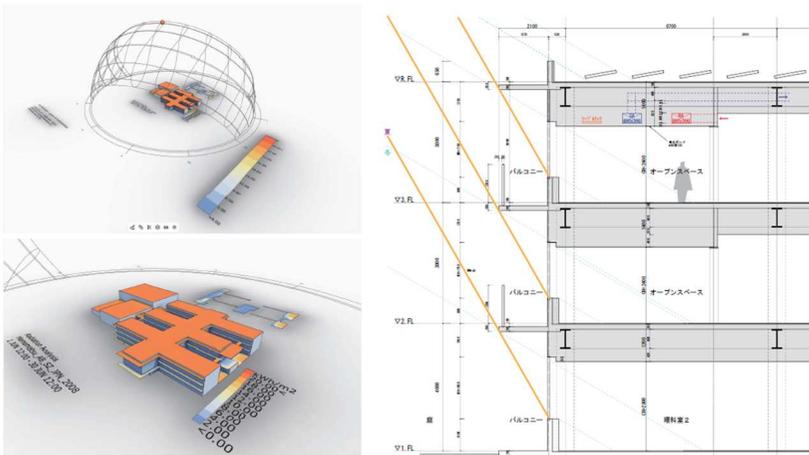


## 2. 体感で学べる『学びの装置』としての校舎

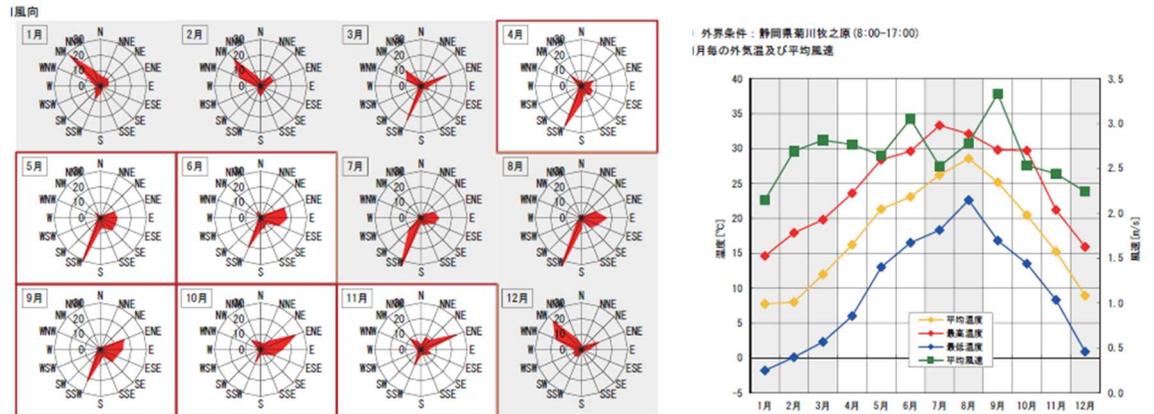
# 環境シミュレーションを活かした設計 ⇒ 窓の向きや位置の検討



### ● 牧之原の日照条件



### ● 牧之原の風向き条件



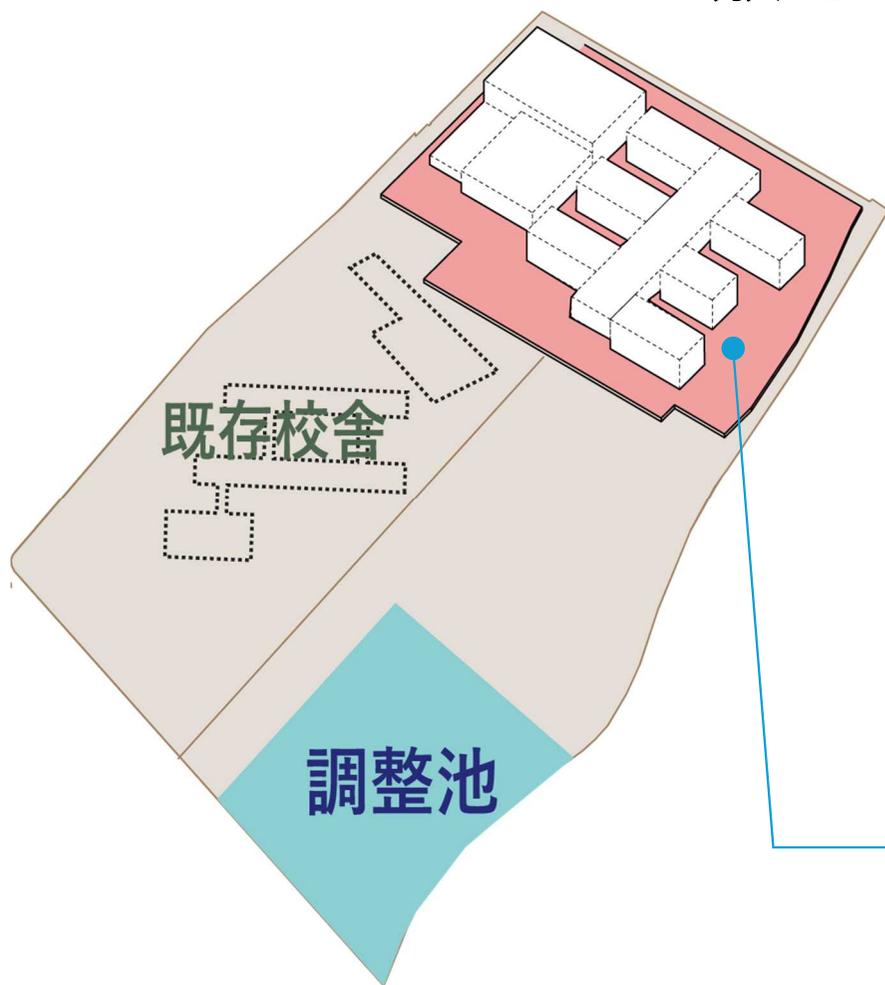
## ポイント③

安心・安全な動線と造成

### 3. 安心・安全な動線と造成

#### ③安心・安全

## 敷地の造成について



- 校舎・体育館は1000年に一度起きるとされている大雨により浸水するときの高さ（想定最大規模浸水高）想定し、**既存校舎敷地より約1.5m高く整備する計画とする**
- 現グラウンドの高さは変えず、**調整池を機能を持たせる**

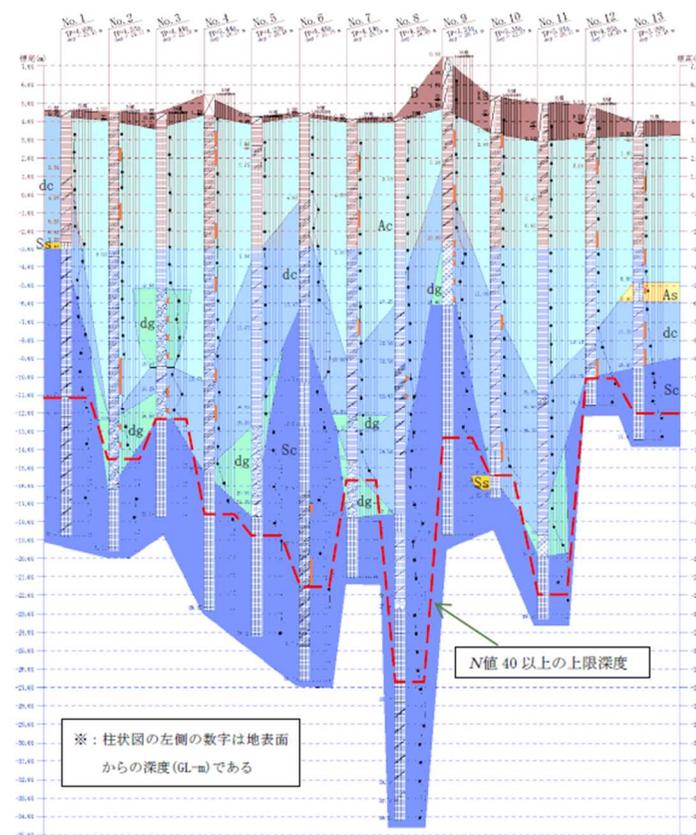
既存校舎の敷地よりも約1.5m高くする

### 3. 安心・安全な動線と造成

#### ③安心・安全

## 地盤について

- 地盤調査を実施し、強固な地盤(支持層)の深さを確認
- 支持層に杭を打つことで建物をしっかり支える
- 地盤の土質を確認し、液状化の心配がないことを確認



#### ●地盤調査結果

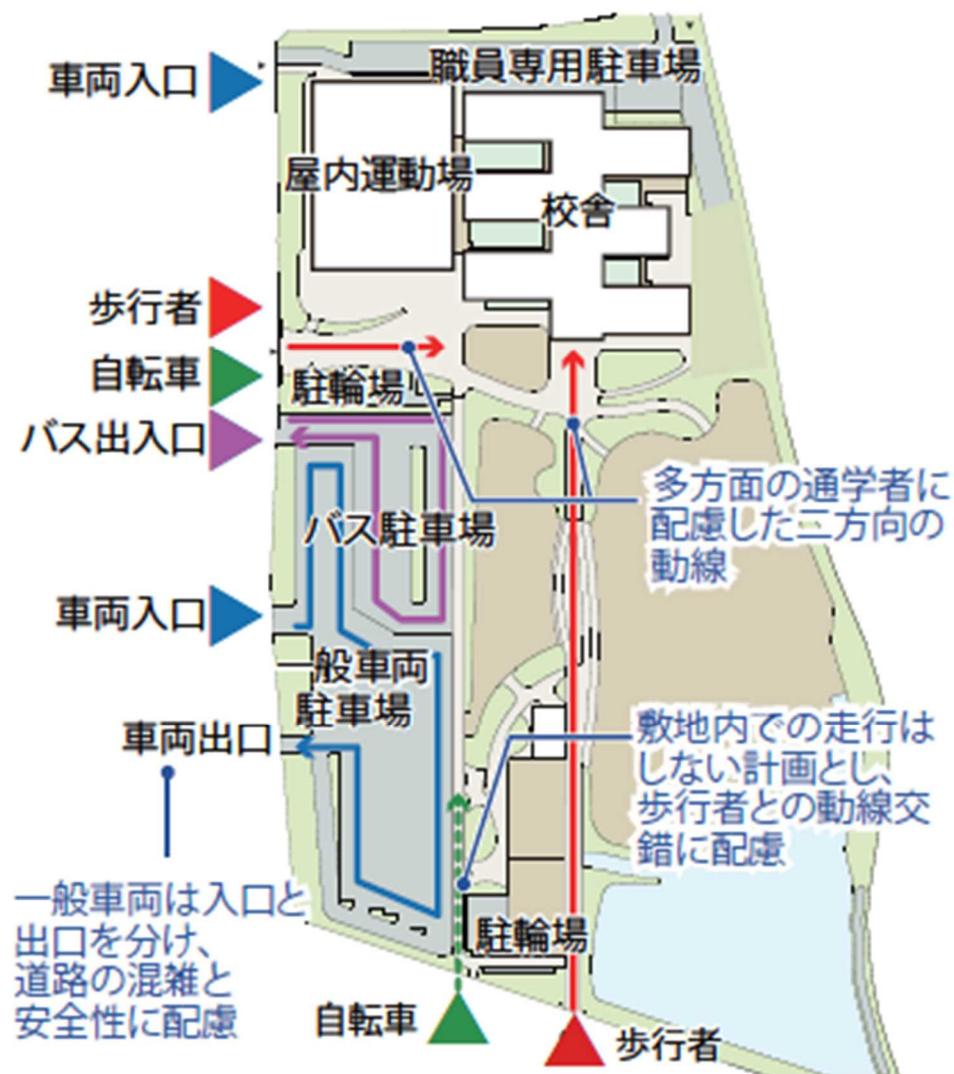
### 3. 安心・安全な動線と造成

#### ③安心・安全

## 外部動線計画・駐車場計画

(外部動線)

- 歩行者、自転車、車両の出入口を分け、歩車分離の徹底
- 通学路は、西側と南側とそれぞれ計画し、多方面の通学に配慮
- 自転車は出入口付近ですぐに駐輪し、敷地内の自転車と歩行者の動線交錯に配慮

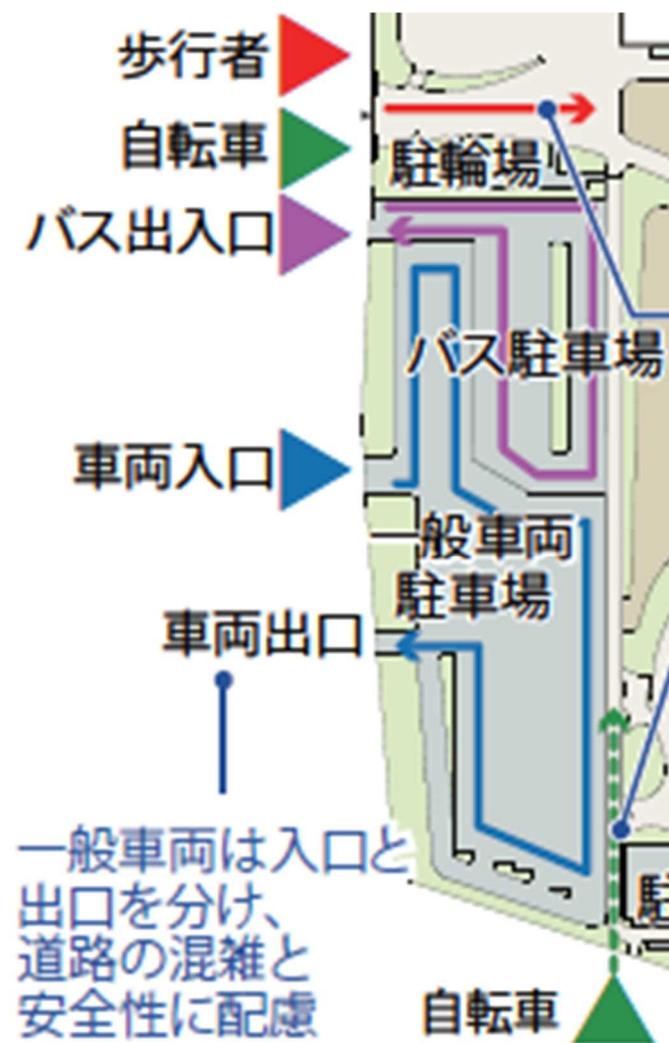


### 3. 安心・安全な動線と造成

## 外部動線計画・駐車場計画

(駐車場)

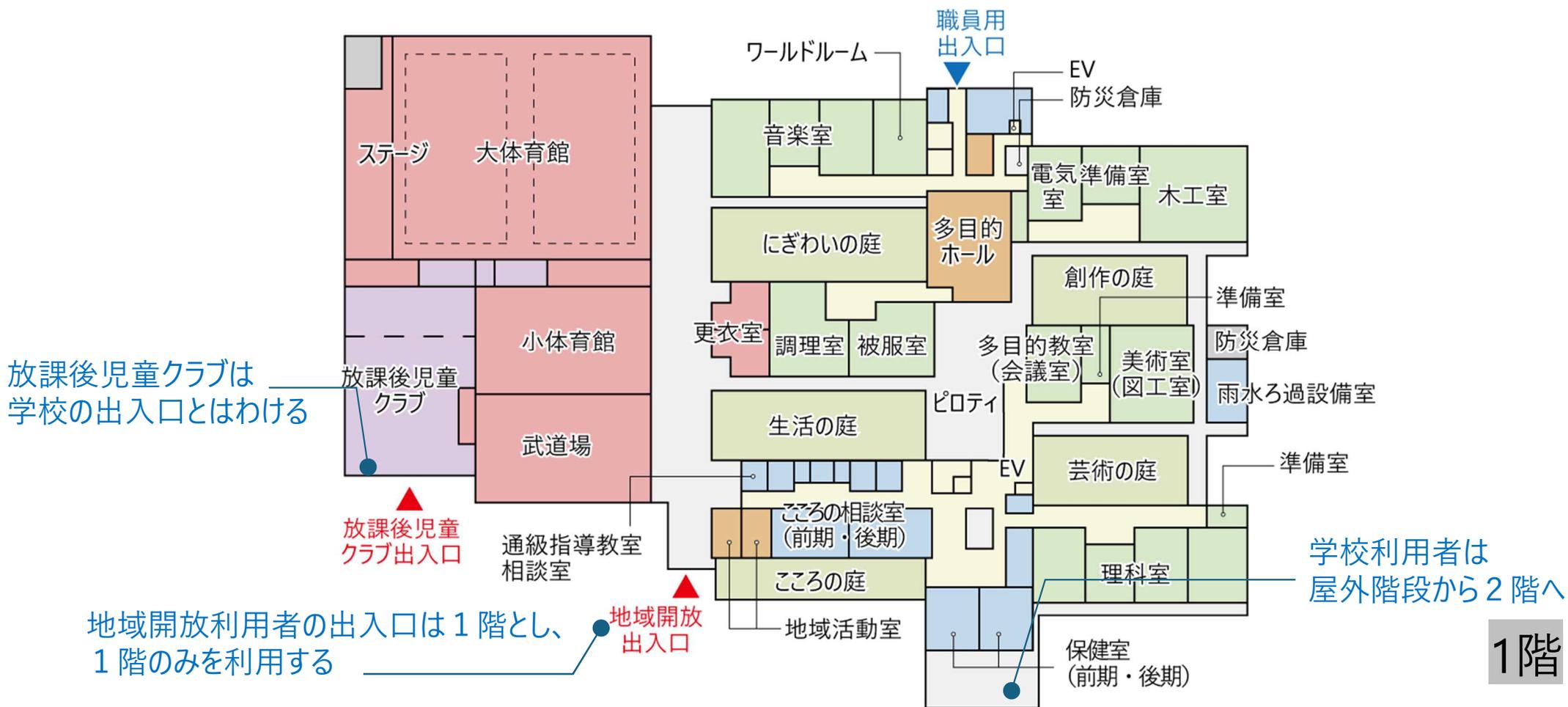
- 駐車場内にできるだけ滞留させ、前面道路の混雑を緩和
- バスと乗用車出入口を分け、動線が交錯しない計画
- 乗用車は入口と出口を分け、出入りのすれ違いによる事故を防ぎ安全性に配慮



### 3. 安心・安全な動線と造成

③安心・安全

地域開放を1階に集約、学校専用エリアを2階、3階にまとめ、  
開放エリアと学校専用エリアを明確に区分

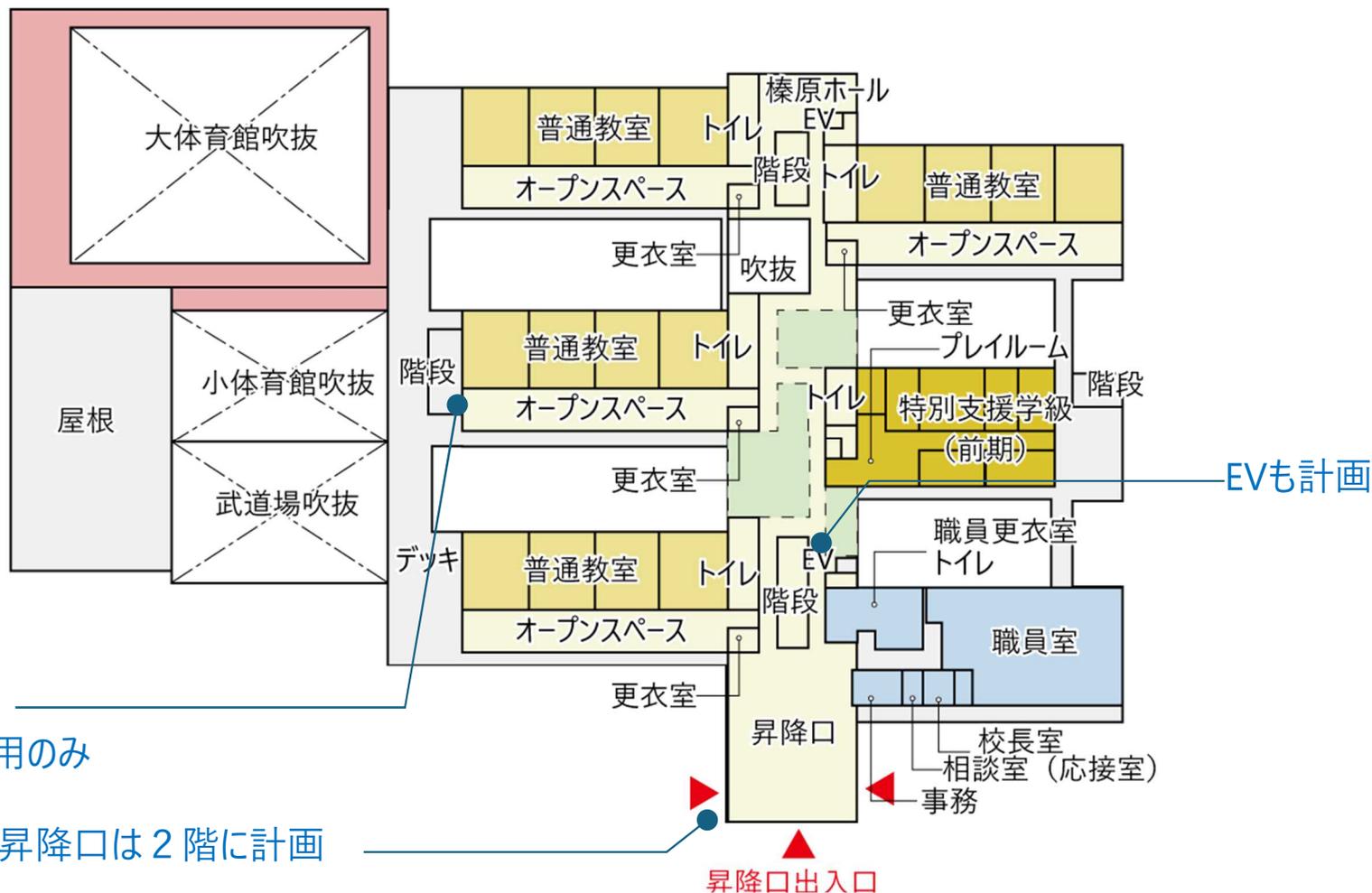


1階

### 3. 安心・安全な動線と造成

#### ③安心・安全

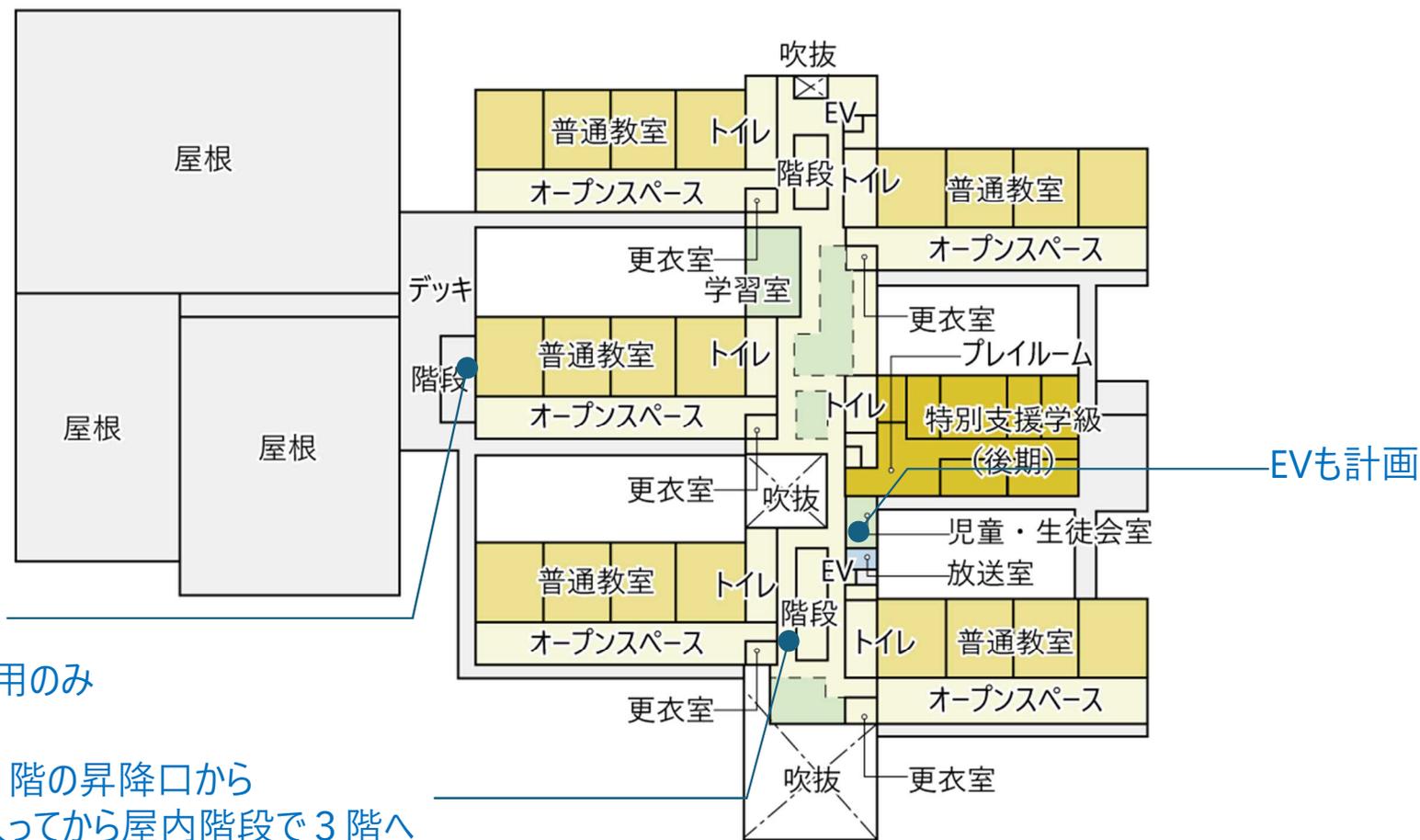
## 2階以上は学校専用エリア



### 3. 安心・安全な動線と造成

#### ③安心・安全

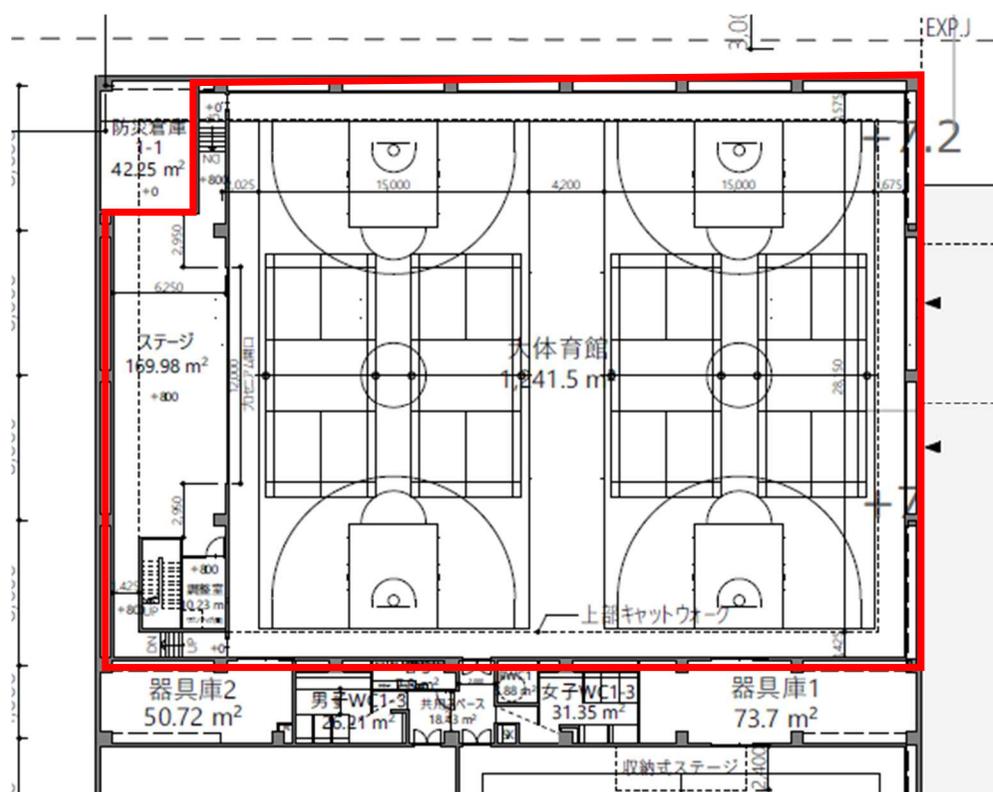
## 2階以上は学校専用エリア



### 3. 安心・安全な動線と造成

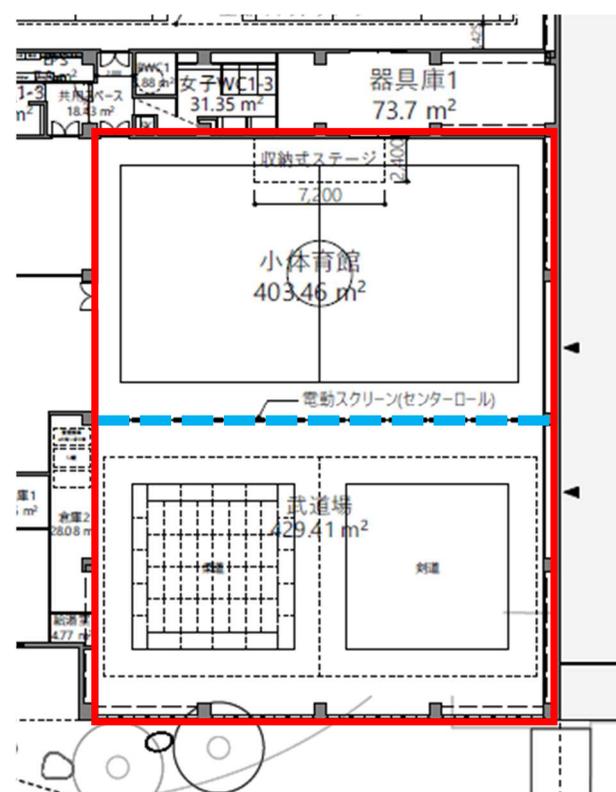
## 体格や学習内容に応じて使い分けができる3か所の屋内運動場

#### ①大体育館



バスケットボール2面分の大きさ

#### ②小体育館、③武道場

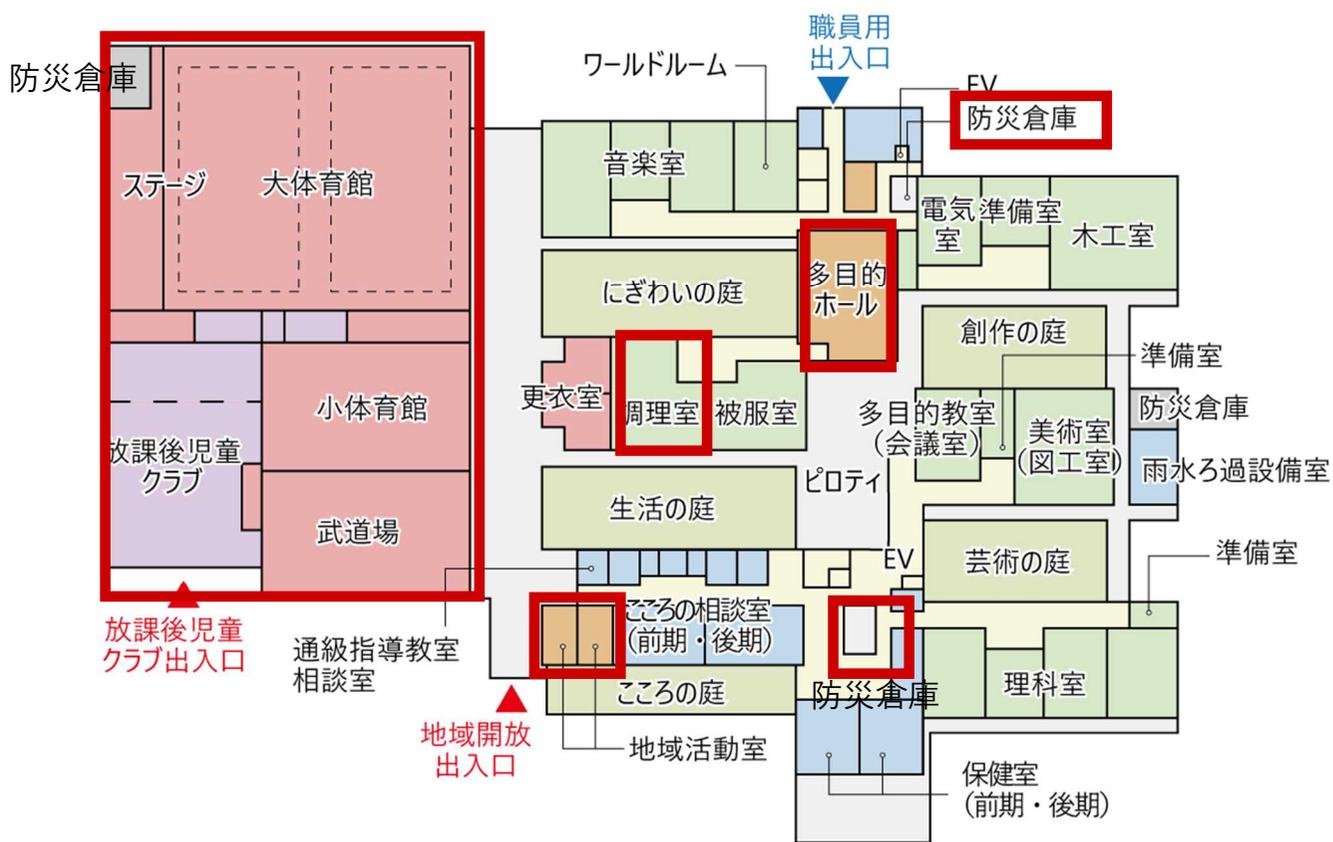


個別でも、一体利用でも可能な計画

### 3. 安心・安全な動線と造成

#### ③安心・安全

## 避難所として活用後も 教育活動が早期再開できるエリア分け



#### ●避難場所

- 体育館 (第一次開放)
- 放課後児童クラブ (第一次開放)
- 小体育館・武道場 (第二次開放)

#### ●物資受け入れ

- 多目的ホール

#### ●調理室

- 炊き出し

#### ●防災倉庫

- 体育館側、校舎内に分散配置

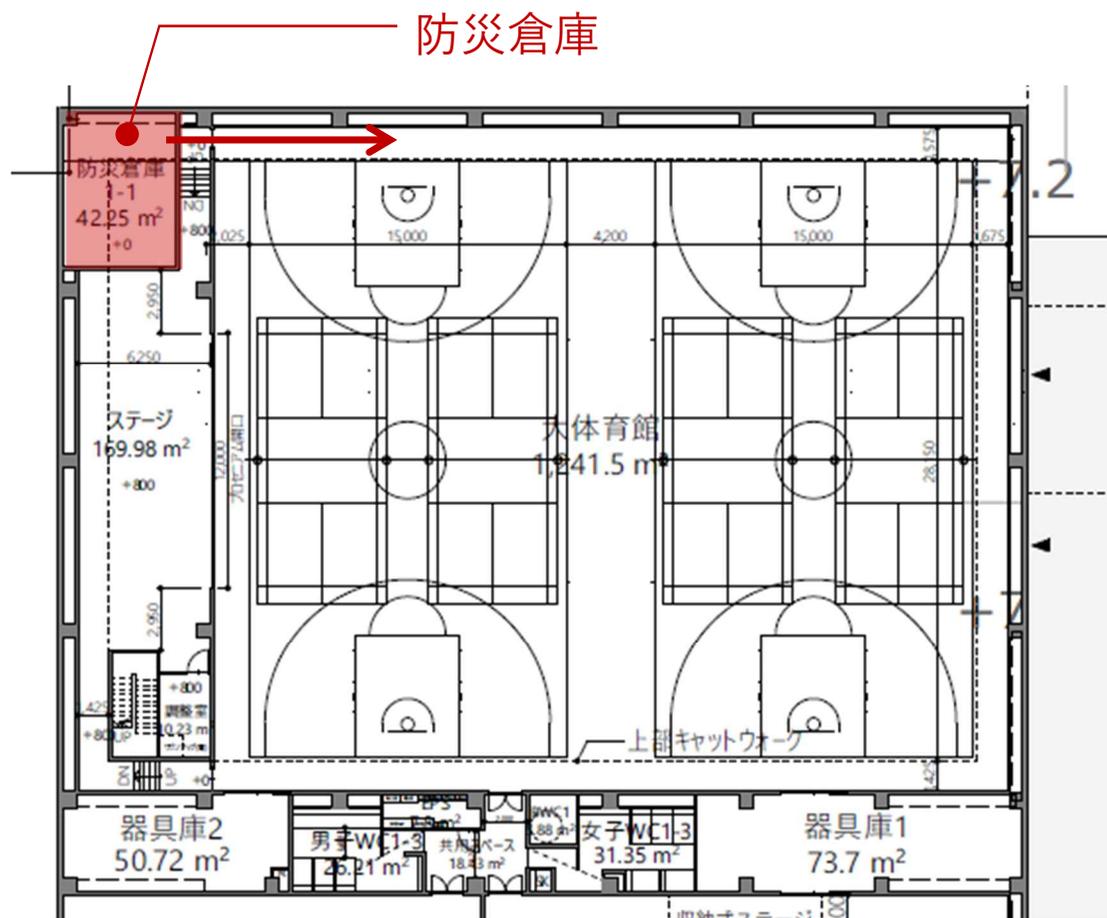
#### ●地域防災

- 地域活動室

### 3. 安心・安全な動線と造成

#### ③安心・安全

## 体育館の避難所対応



- 避難所となる体育館に隣接した防災倉庫を計画し、搬入のしやすさに配慮
- 災害時はガス式エアコンとし、ライフライン途絶時にも空調を利用可能

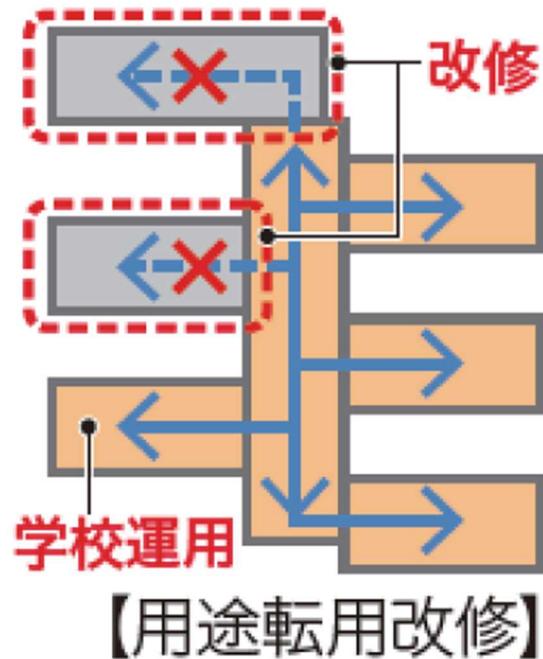
## ポイント④

将来の可変性を備えた施設

#### 4. 将来の可変性を備えた施設

## 変化に対応でき、長く使用できる施設

- ユニット単位での用途変更が可能



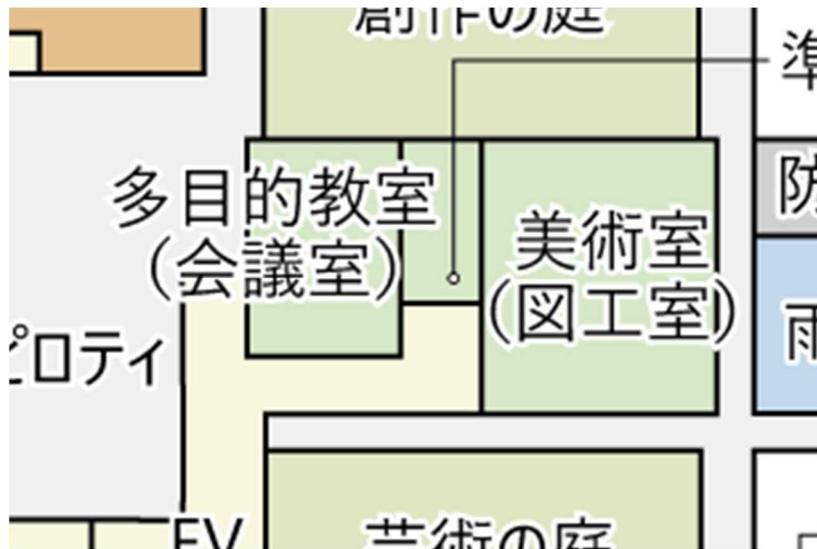
- 鉄骨造かつ、耐震壁を設けない  
計画で二室を一室にするなど改修  
工事がしやすい



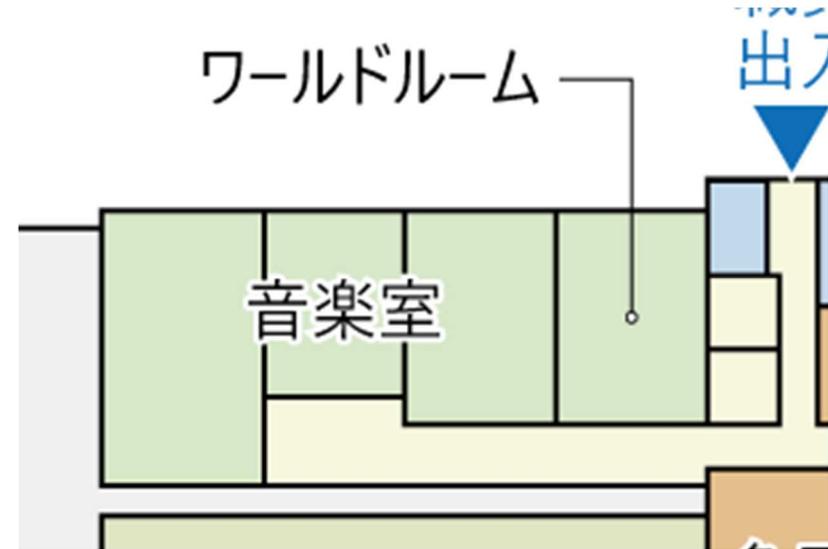
児童生徒数の増減にも対応できる柔軟な施設

#### 4. 将来の可変性を備えた施設

部屋を兼用することで、無駄なスペースをつくらない



- 美術室と図工室を兼用
- 多機能教室を計画



- 音楽室としても多言語教室としても利用できる計画に

## 4. 建て替え計画・工程

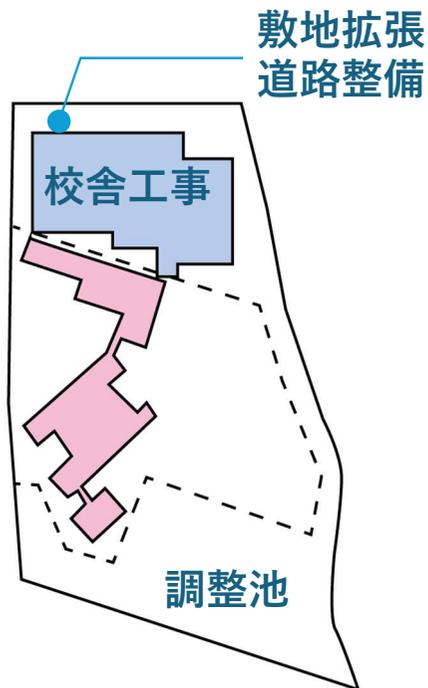
## 建て替え計画・工程

既存校舎を使いながら建て替えを行い、学校運用への影響を減らします

⇒ 工事着手年度に榛原中学校へ入学する児童も3年生時には新校舎が使えます

### ●ステップ1

(2027年8月～2029年11月末)



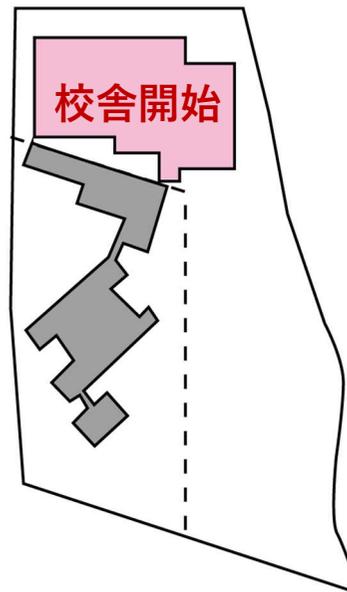
- ・北側隣地を活用し、新校舎を建設
- ・既存校舎は継続利用

### ●ステップ2

(2029年12月～2030年2月末まで引っ越し)

(中学校は2030年1月～開始)

(小学校は2030年4月～開始)

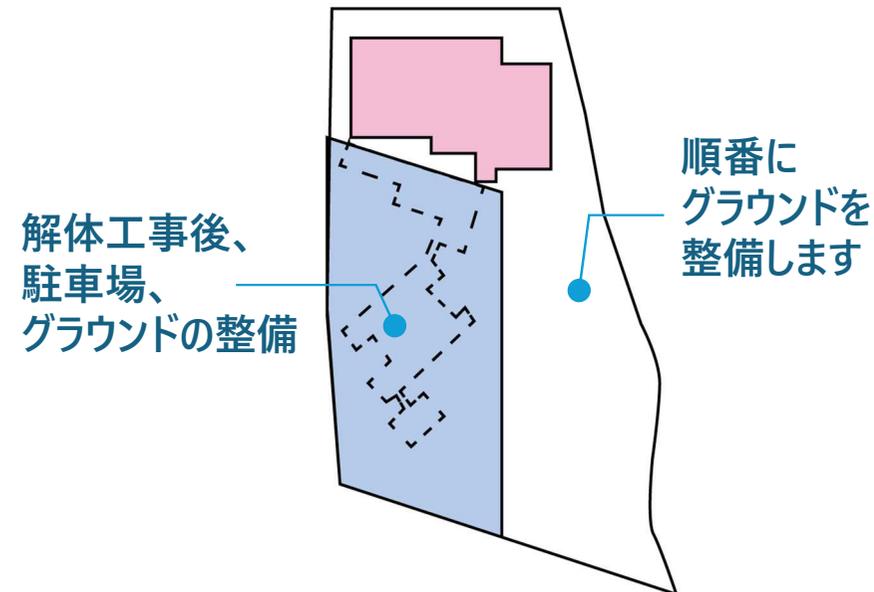


- ・中学校は先行して引っ越し、  
中学3年生の1月～3月までは新校舎

### ●ステップ3

(2030年3月～2032年2月末まで工事)

※2032年3月、4月で全体準備



- ・新校舎引っ越し後、既存校舎解体
- ・開校後、グラウンドや駐車場など  
などの工事を行います。